

まち∞未来 Café(食育サークル食楽々) 意見記録

会 議 名	まち∞未来 Café（食育サークル 食楽々）			
開催日時	令和 7 年 9 月 30 日(火)	13 時半～15 時	開催場所	岸本公民館
参 加 者	伯耆町	9 名		
	住民	16 名		
概 要	・町制 2 0 周年記念映像の視聴・町長から町政提案説明・意見交換			
その他				

(参加者意見及び町側回答)

No	参加者意見	町側回答等
ガソリン等助成	ガソリン等購入助成(ガソリン券)について、大変ありがたく利用している。 今年度事業は未定との話を聞いたが是非実施してほしい。 また、この助成券でデマンドバスの回数券に使えるようにしてほしい。	今年は例年と違い予算が確保できず、ガソリン券を配れない可能性がある。代替措置として水道基本料金の無料化(期間延長)で物価高対策を行った。 デマンドバスの回数券を対象にする案は良いアイデアなので検討したい。 なお、全世帯に配ると約 8,000 万円の予算が必要で、国の交付金が出ていた時は町の負担が小さかったが、現状では難しい。国の追加の支援があれば再検討する。
開発	新しく水の採水工場ができることについて懸念。周囲に影響がでないか不安。	伯耆町内で新たに採水・商品化の計画がある。 計画は関係機関の審査を受けており、水道への影響等も調査されている。 現在のところ問題が出るような採水量ではないという説明を受けており、関係機関と監視しながら進める予定。
農業	兼業農家だったが、現在は近所の方に依頼している。ただ、この先その人たちができなくなった場合の管理などに不安がある。対策はあるのか？	担い手不足で、難しい。 生産性の高い農地は担い手へ集積する。山際など生産性の低い農地は林地としての整備という選択肢になる。 農業委員会や関係機関と連携し、国の支援制度も活用して対処していく。 短期での解決は難しいが、担い手支援や集積化などを進めるようにしているので、農業委員会に相談をしてほしい。

No	参加者意見	町側回答等
道路	溝口 IC より大山に向かう道路の白線が見えにくいので整備を要望したい。	県に連絡・要望を行う。
図書館	図書館は月曜休館で働く人が使いにくい。開館時間延長を検討してほしい。	図書館の開館時間延長や月曜開館は職員配置や蔵書点検日程との兼ね合いがあるため即断できないが、検討・調整していきたい
ふるさと納税	ふるさと納税の寄付はどの程度あるのか？返礼品をもっと魅力あるものにするために開発支援やプロジェクトなどは行っているのか。	ふるさと納税収入は年間約 5,000 万円程度で、その半分程度が返礼品支出に回っている。 今後は外部の専門企業と連携し、複数プラットフォームに出店する予定。 伯耆町の人気返礼品はホテル宿泊券、地ビール、天然水など。 返礼品については町内生産・加工に基づく品目を優先していきたい。 返礼品開発は産業者・商工業者・生産者らが主体となる形で進めば、地域の活性化につながるため、町は支援・連携・協議を図っていきたい。
	ふるさと納税の返礼品として、例えば移住してきて、ある一定期間居住すれば住宅を譲渡するような事業。また、高齢化が進む中、若い人に来てもらうために、新しい発想で事業を進めていけばよいのでは	高齢化など喫緊の課題なので、多様な意見を取り入れて検討したい。
健康対策・検診	伯耆町がさまざまな健康対策を進めていてとてもよいと思っている。伯耆町は医療費が下がっているのでは	健康づくりの取り組み(運動、食事指導など)は医療費の削減につながる事例があり、現時点では具体的な数字を把握していないが町でもその効果を期待している。 町で把握している後期高齢者医療の医療費については、減少している。伯耆町はボランティアで様々な活動に協力していただく方が多いため、医療費削減につながっていると感じている。
	住民健診の際に耳鼻科健診があるのか？悪くなってからだの手遅れになるので、若年層から検査できるようにすればよいのでは	住民健診で行っているが、静かな場所で行う必要があるため、一部の健診会場で行っている。 早期に検査し、結果が悪い方は医療につなげていくようにしている。 今後、さらに周知を行っていく。

No	参加者意見	町側回答等
農 産 物	農業のブランド化について、伯耆町としてもっと作っていく必要があるのでは	行政が先頭に立つと時間とコストがかかるが、産地化やブランド化を進めるためには生産者主体での取り組みと町の支援が必要。 成功例は地域と行政、農協の共同投資が前提になっていることが多く、段階を踏んで取り組んでいく。
	伯耆町として農産物のブランド化が作れないのか？	実は伯耆町も白ネギ、ブロッコリー、キャベツ等を作る農家はたくさんいるが、面積が小さいため産地化して見えていない。 近隣市町村では販売場所の立地や行政や農協からのかなりの投資を行っているため、ブランド化されているように見えている。 ただ、伯耆町は農家がやりたい農業をフォローしている状況。 地域名を付けるなどの工夫をするなど検討していく。
	町内で農産物を生産している方を知らない。周知をしてほしい。	農業だけではなく、伯耆町内の情報を広く発信していきたい。 現在、ホームページ・CATV・広報紙・防災無線など行っているが、今後スマホでも情報発信できるように検討を進めていきたい。